



三河のつばやき

地域連携の必要性が叫ばれていることは、来年度4月からの診療報酬改訂にも現れています。感染症対策加算として、地域の医療機関と中心となる医療機関の間で感染管理チームの合同活動を行うと加算、高次病院で緊急治療を行った後7日以内に紹介元医療機関に患者様を帰すと加算。また有床診療所がターミナルケアを行うと加算。保険点数が付くことはある程度のモチベーションになるでしょう。しかしこの地域で働く皆様の元に足を運んでみると、保険点数など関係なく「本当に必要なこと」を求めていることに気づかされます。過日に地域連携室コアメンバーで、今後の方針について熱い話し合いを持ちました。昨年度の目標はほぼ達成できましたが、この地域を回って感じた「本当に必要なこと」について、第21号で発表させていただきます。



がん地域連携室
室長 三河 貴裕

がんのリハビリテーション講演会開催



3月7日(水)に医療従事者を対象とした、がんのリハビリテーション講演会を開催いたしました。広島大学大学院 岡村仁教授に「終末期におけるリハビリテーション」をテーマとし、ご講演いただきました。医師・理学療法士をはじめ、多職種スタッフが参加し、終末期のリハビリにおける患者さまの精神的負担、患者さまと医療従事者とのコミュニケーションの取り方など多くを学びました。

第4回房総がんケアフォーラム開催

3月10日(土)に、第4回房総がんケアフォーラムを開催いたしました。「スピリチュアルケアの現場から見えてくるもの」というタイトルで、高野山大学の井上ウイマラ准教授にご講演いただきました。現場からの事例や、患者さまを「診る」側のストレスの切り抜け方など興味深いお話を伺うことができました。時間を超えても多くの質問を頂き、充実した講演会となりました。房総がんケアフォーラムは市民の皆様にも広くがんに関連する情報を周知する為に定期的に開催しています。是非ご参加下さい。



腎臓病教室始めます

腎臓高血圧内科 部長 望月 隆弘

地域の先生方にはいつもお世話になっております。腎臓高血圧内科の望月です。以前より、多くの腎臓病患者さんをご紹介いただき、ありがとうございます。昔は、ほとんど透析に近い状態で紹介いただくことも多かったのですが、最近では、CKD概念の確立もあり、尿所見異常の段階で紹介いただくことが多くなり、腎生検など詳細に検査し、腎障害の進行に歯止めをかけることができいております。事実、慢性腎炎からの透析導入は年々減少しており、地域の先生方からの早期のご紹介による賜物であると考えております。しかしながら、糖尿病などの生活習慣病に伴う透析導入が多くなっている事実があり、腎臓病のみならず、心血管病の進展予防にも、地域の先生方とともに、房総地域の患者さまの生活改善に努めなければならないと痛感しております。

さて、私が亀田総合病院に赴任した時に、鴨川にイオン(扇屋ジャスコ)ができました。当時より前原海岸での朝の軽いジョギングを趣味として長年行ってきましたが、かくいう私も、エイジングには勝てず身体的な故障が生じ始めております。1月に無理がたたリ、左足の下腿三頭筋を痛めてしまい、5週間後の今でも歩くこともままならない状態です。また、3か月前から何がきっかけか判りませんが、右肩関節周囲炎(いわゆる50肩)を生じ、水泳のクロールはおろか、車のシートベルトを引き下ろすのも厄介となっております。上肢、下肢が自由にならず、まさに「2重苦」の状態、体を動かさず日々悶々としている今日この頃です。

私の病気話はさておき、4月からは腎センターとして、腎臓病教室を始めたい予定です。腎臓病の食事管理から、透析・移植などの腎代替え療法選択まで、多くの議題がありますが、少しでもこの地域での腎臓病を減らしていくようにスタッフともども努力する所存です。

今後とも腎臓病の患者さまのご紹介、よろしく願いいたします。

地域医療連携の現況



九重鈴木医院
鈴木 丹院長

館山市の九重地区で開業して、今年で20年目になります。私が外科で妻が内科ですが、現在は全科の相談係のような気が致します。20年前は亀田病院のことが全く分からず(私は埼玉県生まれ)救急外来の先生が怖いと思ったこともありました。

和田で開業している間宮聡先生の紹介で皮膚科の宮崎和廣先生と田中厚先生の「南房総皮膚科研究会」に出席するようになり、少しずつ亀田病院が理解できるようになりました。2人の先生の研究熱心さと真摯な態度に感銘いたしました。

平成22年の8月と平成23年9月に亀田病院の腫瘍内科及びがん地域連携室長の三河貴裕先生にお会いしました。先生の親切丁寧な説明は、患者様を主体としており共鳴しました。それ以後の症例で

- ・風邪と思って来院された『悪性リンパ腫』
- ・初診で『胃の末期癌』
- ・定期的精密検査をしていたのに『多発性肝転移をきたした膵臓癌(膵癌)』
- ・頭痛は寝不足が原因と思って来院した『脳腫瘍』

をはじめ、いろいろな方を紹介しました。腫瘍内科の先生方から、初診時・入院時と経過・退院時とその治療方針等、数回の報告を受けました。退院後の本人や家族が不安になった時、詳しい報告書があるので相談に応じることができるようになりました。

今後、癌遺伝子の研究や治療が進歩し、通常の抗がん剤だけでなく、個々の患者様の細胞免疫に合わせた、ミサイル療法や免疫療法がより普及すると思います。そのような時には、ますます開業医と病院の地域連携は必要になります。私達2人は、体力と精神力の減退を感じますが、微力ながら尽力をつくしてまいります。宜しくお願いします。

亀田総合病院/地域医療支援部・地域医療連携室
発行責任者: 亀田 信介
編集責任者: 唐鎌 房子
TEL: 04-7099-1261(内線7156)